



ドクター・ハザマの

# バイタルサイン塾

46

(最終回)

## 変革が生む薬剤師の新たな未来

ファルメディコ株式会社  
大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座  
医師・医学博士 狭間 研至

### 必須ツールたるバイタルサインも駆使し 薬物専門家として疾病治療体験の提供を

薬剤師の在り方が大きく変化しているそもその発端は、人口構成の変化によって疾病構造や社会保障制度が変わってきた中で、患者さんの医療ニーズも大きく変化してきたことによります。

今や国民の4人に1人が高齢者となり、生活習慣病や脳梗塞・心筋梗塞後など慢性疾患の予後がメインとなり、医療は救命や疾病の治癒から、ADL (Activity of Daily Living) の改善や健康寿命の延長を目的としたものへとシフトしてきました。また、医療行為は外科治療や侵襲的検査から薬物治療へ、そしてその多くは経静脈的なものから経口的・経皮的・経気道的など体に負担が少ないものへと変わってきました。医師が診断から処方へと軸足を移す一方で、それらの薬物治療の適正化という面で、薬剤師が関わる部分が増えてきたのです。

さらに、平成18年には薬剤師を育成するための薬学教育が、6年制に移行しました。高校生が大学教育を受けて医療専門職になるという日本のシステムを考えると、この教育課程の変化が与えるインパクトは非常に大きく、今までとは異なる薬剤師を生み出すための仕組みがプログラミングされたことで、まさに、起爆剤になりうるシステムが構築されたと思います。この内的な要因によって、薬剤師の在り方は大きく変わろうとしています。

薬剤師の業界に限らず、今、日本の産業の多くは大きな変革を迫られています。それらに共通する代表的な外的要因が、インターネット、ロボット技術、そして人工知能です。インターネットの普及は、知識の習得や格納、実践現場への利活用といった現場を大きく変えました。医療に関わるさまざまな情報においても、それを正しく解釈できるかどうかという問題は残りませんが、専門家のみが入手しうる情報というものはなく

なっていました。

また、世界最先端のロボット技術は、単調な繰り返し作業や、比較的単純な作業をどんどん機械化することを可能にし、さらに年々発達する人工知能は、定型的な相互作用や投与量チェックがコンピューターで可能な時代をもたらしています。

このように見てみると、高齢化が進む国で、薬剤師は機械化の波にも負けずに6年制にふさわしいビジョンを具現化できるのか、不安になる方もいらっしゃるかも知れません。しかし、私は極めて楽観的です。それは、医療というのは薬というモノが中心にあるわけではなく、疾病の治癒という状態を手に入れることが目的で、そのために体験するヒトとの触れ合いが重要——というより、それがすべてだからです。

昨今の薬剤師の在り方の変化は、疾病構造の変化や6年制、ロボティクスの導入などのいろいろな影響を受けながら、結局は、薬剤師が薬物治療の専門家として、患者と一緒に疾病の治療という体験を進めていくことを求めていると見ることができます。

本連載で触れてきたバイタルサインやフィジカルアセスメントというテーマは、まさにこれらの体験を薬剤師が提供するために必要不可欠、というよりも、自然と習得し活用する技術や知識、そして考え方だと思います。ぜひ自信を持って、毎日の業務に、そして自己研鑽に励んでいただきたいと思います。

本シリーズも、早いモノで4年が経過しようとしています。第1回をお届けしたころと比較すれば、本当に薬剤師の業界は大きく変わりつつあると思います。その変化の一端を本連載が担うことができたのであれば、とても嬉しく思います。『ドクター・ハザマのバイタルサイン塾』は今回で最終回とさせていただきます。長い間のご愛読、ありがとうございました。

そして次号から、また装いも新たにお目にかかります。どうぞよろしくお祈りします。